



小さなことでも全力でやれ

1学期終業式に発行した学校通信第22号で、高校野球のことに触れました。その高校野球の結果は、ご存じのとおり、沖縄代表の興南高校が見事に春夏連続優勝を飾り、話題になりました。優勝の原動力となった島袋投手がクローズアップされる一方で、見事な采配をふるった我喜屋監督も注目を浴びました。下の新聞記事は、優勝を決めた翌日の朝日新聞の「ひと」に掲載されていたものです。野球の技術だけでなく、人としての生き方をしっかりとたたき込むなど、栄光の陰に、地道な指導があったことがうかがえます。

深紅の大優勝旗が初めて沖縄へ渡る。夏の甲子園での全国制覇は悲願だった。その上、史上6校目の春夏連覇も成し遂げた。

まだ沖縄返還前の1968年夏、興南の主将、4番で甲子園に出て4強入りし、“興南旋風”と呼ばれた。だが「(優勝という)大きな魚を逃したと、42年間ずっと思ってきた」。今年7月に同校の理事長に就いた時も、監督続投が条件だった。

社会人野球の選手・監督などとして、34年間を北海道で過ごした。そこで学んだのは「逆境を友達にする力」だ。つらいこと、嫌なことにはすべて慣れ、自分の財産にする。北海道の冬は雪かきをして、沖縄の長い梅雨は雨がっぱに長靴で野球をしてきた。「苦いゴーヤだって、慣れてくるとおいしくなる」。

甲子園入りすると毎朝、宿舎近くの公園を散歩するのが日課だ。春の選抜大会で優勝した翌朝、満開の桜の下で選手たちに語りかけた。「この桜も、散っちゃうよ」。花を支えるのは結局、目に見えない根っこ。沖縄に帰ったらもう一度始めよう。

野球に限らず、約束事を守れ、小さなことでも全力でやれ、と言いつけてきた。小さいことを見ようとしない人には、見落としがいっぱいある。小さいことを感じられる人は、大きな仕事ができる。

「小さなことを積み重ねたちびっ子が大きなことをやってくれた。むしろ背中を押されました。彼らの手で胸上げされ、胸が熱くなった。」

※朝日新聞「ひと」から引用

さて、今日の全校朝礼で、全国学力・学習状況調査の結果についての話がありました。国語と数学に関する調査だけでなく、家庭生活に関すること、自分自身に関すること、きまりや他の人とのかわりに関することなど、数多くの質問紙調査もありました。その中で、「ものごとを最後までやりとげてうれしかったことがありますか」「難しいことでも失敗をおそれないで挑戦していますか」「自分にはよいところがあると思いますか」「将来の夢や目標を持っていますか」「人が困っているときは、進んで助けていますか」「人の気持ちがわかる人間になりたいと思いますか」「学校の規則を守っていますか」など多くの項目で、全国や香川県全体よりもはるかにいい結果が出ていました。我喜屋監督が言う「約束事を守れ、小さなことでも全力でやれ」にも通じるものです。小さなことにも全力で取り組んでいる生徒たちです。いつかきっと大きな仕事をやり遂げてくれるはずです。

熱中症対策

厳しい暑さの中で体育祭の練習が始まりました。そして、明日からは、学級対抗競技の早朝練習が始まるクラスもあります。これまで、早朝練習をする際は、体操服で登校してもよいことになっていましたが、授業中はけじめをつける意味から制服に着替えさせていました。

しかし、生徒の多くが体操服の上から制服を着るという現状等もふまえ、体操服のまま、授業を受けてもいいことにしました。ただし、汚れた場合はきちんと着替えをする、シャツ出しなどだらしない着こなしはしない、タオルを首にかけないなど、しっかりとけじめをつけることを約束しました。もちろん、制服に着替えてもかまいません。清潔な服装に着替えることも熱中症対策の一つになります。各家庭におかれましては、体操服の着替えの準備などでご迷惑をおかけしますが、ご理解・ご協力をお願いします。